

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0770403103		
法人名	社会福祉法人 ハートフルなこそ		
事業所名	グループホーム わいの家(ぬくい)		
所在地	福島県いわき市植田町小名田13番地の2		
自己評価作成日	平成21年10月30日	評価結果市町村受理日	平成23年2月23日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigo-fukushima.info/fukushima/Top.do">http://www.kaigo-fukushima.info/fukushima/Top.do</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人福島県シルバーサービス振興会		
所在地	〒960-8043 福島県福島市中町4-20		
訪問調査日	平成21年12月11日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

わいの家＝私の家ということを理念に反映し、家庭的な雰囲気の中で、一人ひとりのペースで生活できるように支援している。生活環境は、ハード面とソフト面から、自宅で過ごしていた生活を継続できるように、居室環境を作り、ライフサービスプランに生活パターンを計画し支援している。ご家族との協力で、面会時もゆっくり過ごされる方が多い。地域との係わりでは、推進会議の反映もあり、高校生のボランティア、保育園の遊戯の見学参加、自治会の行事への参加など、社会の中で共に暮らすことを目指している。毎年、実施しているフリーマーケットでは、楽しみにしている方もいて地域へわいの家の存在をアピールできる機会となっている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

家庭的な雰囲気の中でゆったりと穏やかに利用者一人ひとりが自由に今までの生活を継続している。「ごく普通の生活をご当たり前に支援したい」という管理者の言葉を実践に結びつけるために、事業所の理念を十分理解し日々研鑽している。地域密着型サービスを提供する環境にも恵まれており、近くには保育園、高校があり、日常的に交流を行っている。自治会に入り、利用者や地域の行事へ参加し、地域の中で共に暮らすことを実践している。また、いかに家庭的な雰囲気を持たせるかを設計に取り入れ、1ユニットをふたつのグループに分け、グループごとに「食堂・台所」、「おえ(居間)」、「かみおえ」があり、その時の気分で居場所を選べるよう工夫している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	年度初めの、ケアワーカー会議では、理念を再確認し、チームごとの目標を立案している。また、日頃のサービスについても、理念に基づく実践をすることを確認している。	母体である社会福祉法人の理念を基本に地域密着型サービスの役割を反映させた基本方針とユニットごとの目標を立てている。職員全員が理念等に基づき、利用者の今までの(自宅での)生活が継続出来るよう支援をしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に入るなど、地域の中での暮らしを意識している。地域の行事や、清掃活動などに積極的に参加している。地域の中で、高校、中学のボランティア体験なども受け入れている。	自治会に入り、利用者と各種行事に積極的に参加している。また、近くの高校生が下校途中に立ち寄り話し相手になってくれたり、中学生の福祉体験を受け入れたり、保育園を訪問し交流している。同敷地内で毎年開催されるフリーマーケットに事業所でも出店し楽しみとなっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	法人全体が、地域福祉に向けての理念に取り組んでいるため、実習生の受け入れ、認知症についての講習、小・中学校の授業での車椅子体験や高齢者の疑似体験への講師などに出向いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、事業所の取組内容や具体的な改善課題がある場合にはその課題について話し合い、会議メンバーから率直な意見をもらい、それをサービス向上に活かしている	推進会議は、2ヶ月に1度実施しており、地域の代表の方に参加していただいている。防災訓練や、行事のお知らせ、報告をしている中で、助言をいただき、改善している。	運営推進会議は、2カ月に1度行われ、事業所の行事等を報告し、委員から意見や要望等が出されている。委員の意見で、事業所の説明用資料を準備した。今年から議事録の書き方を変更した為、委員の意見等が誰から出されたものか確認出来なくなりました。	適切な運営推進会議が開催されているが、今の議事録では誰の提案かが読み取れないため、議事録の書き方を以前の形式に戻されてはどうか。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	推進会議に、市民生委員や、包括支援センターの職員に参加してもらい、地域の認知症高齢者や福祉に対する理解を相互に話し合っている。	市の長寿介護課よりキャラバンメイトの講師を依頼されている。常に市の担当者と連携を取りながら支援している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関は、日中の時間帯を決め、施錠していない。ケアの取り組みは、常に、身体拘束に及ばないケアをするために、カンファレンスを行い、ご家族にも理解していただいている。	利用者にいつでもすぐに同行できるよう、玄関付近に事業所の携帯電話や財布、おむつなどを入れた外出バックを備えている。職員が利用者一人ひとりの生活パターンを理解し、細やかな目配り、気配りをする事で、鍵をかけない自由な生活につながっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内外の会議への参加と、伝達研修を行い、正しい知識の習得に努め、実践している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設内外の会議への参加と、伝達研修を行い、正しい知識の習得に努め、実践している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書とは、別に入居案内のパンフレットを作成し、わかりやすく説明している。また、看取りなどの加算時は、ご家族を集め、説明会を実施した。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に、メッセージBOXを設置するなど、気軽に意見を言えるように工夫している。また、面会時や電話など、随時、要望やご意見など聞くようにしている。	家族の来訪時には、お茶を飲みながら意見等があれば、気楽に何でも話せるような雰囲気作りをしている。また、家族の代表が家族の意見をアンケート形式で聴取してくれ、出された意見等を運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月、1回ケアワーカー会議を実施しており、業務内容の改善事項、カンファレンスを実施し、意見交換をしている。研修などは、要望を聞き、参加実施してもらうようにしている。	毎月1回、ケアワーカー会議を開催して職員の意見や要望等を聞き取り、業務の見直しなどにつなげている。また、管理者は日常の会話の中からも職員の意見や要望を聞き運営に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	目標管理制度を法人内で実施しているため、定期的な面接、個人目標の実施をしている。また、随時、面接をしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	目標管理制度を法人内で実施しているため、定期的な面接、個人目標の実施をしている。また、随時、面接をしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県のグループホーム協議会に入っており、県内、外の研修に参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ライフサービス計画表により、本人の行動・意向、希望などをケース記録に残し、利用者の思いを把握しながら支援をしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用者の家族が面会に来所時など、要望等を聞き、スタッフ全員で話し合いながら支援している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者と家族から、聞き取り記録をし、そのとき必要としている支援をスタッフ全員で行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の趣味、得意な事(料理、畑のこと、唄、手芸、絵画など)教えてもらいながら一緒に生活する。掃除、洗濯、食事を一緒に作る。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族面会時、本人と家族がゆっくり過ごせるように見守りする。共に掃除をしたり、お茶を飲んだりできるよう支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	なじみの店や理髪店などへ出かけられる様支援、また、知人来所時ゆっくと楽しく過ごせるように支援する。	馴染みの理美容店に出かけたり、定期的に事業所を訪問してくれる理美容店を利用したりしている。また、家族や知人が訪ねてきたときは、居室でゆったりと過ごせるよう配慮している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりのペースを大切に、居室にいるとき、皆と違う場所にいるときなど、常に声かけ見守りしている。職員が間に入り話をするときなど、コミュニケーションが取れるように努めている。利用者同士が居室に過ごす際に、見守り支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	病院へ、入院した方へは、面会に行ったりしている。		
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	帰宅願望、入浴対応などは、本人の希望に耳を傾け、職員全体で、話し合い対応支援している。	利用開始時に家族に書いてもらった資料を参考にしながらセンター方式で意向の把握はしているが、利用者との日常会話の中からも聞き取っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人が使用していたタンスなど、配置し生活環境を整え、生活歴などを把握し、楽しく暮らせるように支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その時の利用者の気持ちを、最大限尊重し、疲れ、眠気などのあるとき、体調の変化に気をつけ、職員全体で支援していく。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の心身状態に変化があった場合などは、スタッフ全員で話し合い、その時に会った対応を支援する。	定期的に介護計画の見直しを行っているが、心身状態に変化があった場合は、随時全員で話し合い現状に即した介護計画を作成している。実施記録に基づくモニタリングも適切になされている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の様子に、気づきがあった時等、ケース記録に記入し、職員内で、話し合い情報を共有しながら、実践し、見直し支援に生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族の状況を把握し、その時々生まれるニーズに職員全体で話し合い、本人・家族に会うサービスの支援をしていく。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	フリーマーケットなど、地域の方々に参加していただいている。学生ボランティアの受け入れなど地域とのつながりを持っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力病院があり、状況の変化があったときは、連絡し指示を頂いている。往診体制も出来ている。日常生活動作が低下した方の受診の場合は、付き添いや家族と同行している。	かかりつけ医への受診は家族に協力してもらい、結果を家族から報告をもらうようにしている。必要があれば職員も同行もしている。協力医療機関の往診は毎月あり、病状に変化があった場合にも対応が可能な体制にある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	バイタルチェック時やケア時に、異常や特変があった場合、看護師に報告し適切な指示を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、定期的に面会を行い、先生や看護師の情報を得て話し合い、ご家族本人、グループホーム側の方向性を決め、早期退院に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人や、ご家族の意向、要望を聞き、主治医と話し合い、状況に応じて入院が必要か、往診で対応か、状況判断し、対応している。	事業所としてターミナルケアの理念と方針を定め、利用者・家族に説明し、同意を得ている。利用者や家族の意向を踏まえ、医師や職員が連携し安心して終末期を迎えることが出来るよう支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急救命法の講習に参加したり、マニュアルを確認したりしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を定期的実施している。避難誘導法など1人1人にあつた対応を考えながら実施している。	防災計画に基づき、毎月防災訓練を実施しており、近隣の人達にも緊急連絡網に入ってもらい、協力を得る体制となっている。また、災害時の備蓄も準備している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりにあった声かけをし、わかりやすく、不安や不快に感じないように優しく話している。	職員は利用者一人ひとりを尊重し、プライバシーを損ねないような言葉かけ等を行っている。また、プライバシーの確保に関する職員研修も計画的に実施されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の話(訴え)に、話を聞く時間をつくるように心がけている。その際、の表情なども見て、対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のペースに合わせてながら、入浴時間等も柔軟に対応して、楽しい時間をつくれるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	近隣の美容院へ行ったり、外出ができない利用者は、訪問していただき散髪や顔そりなどを行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事に関連した作業を利用者とともに職員が行い、一緒に食事を味わいながら利用者にとって食事が楽しいものになるような支援を行っている	利用者の好む食事メニューと一緒に考えたり、調理したり、一緒に楽しい食事をしている。	食事一連の流れの中で利用者の出来る事を手伝ってもらい、利用者の好きなメニューを献立に取り入れ、職員も一緒にテーブルを囲み会話しながら楽しい食事になるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量の低下の観察を行い、不足の場合には、好きなものを考え提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後のうがい、義歯の洗浄を行い、口腔内を観察している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し、トイレへの誘導し、失敗の軽減や本人の了解を得ない容易なおムツ対応を避け、気持ちよく排泄できるように支援している。	利用者ごとに排泄チェック表を記入し、排泄パターンを把握している。利用者の様子等を見ながら、トイレ誘導し、排泄の自立に向けて支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事量、水分等の観察や、積極的に体を動かせるよう散歩や役割等を促している。便秘に良い、食材を利用し、献立に取り入れている。腸の運動が活発になるように、起床時、冷たい牛乳の摂取などの習慣を取り入れている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴意思確認しながら、時間帯や回数を制限せず、時には気のあった利用者同士一緒に入浴することもある。個人の興味があるコミュニケーションにて入浴が楽しいと得られるよう支援している。	1ユニットに2箇所ずつお風呂があり、利用者の希望を聞きながら、好きな時間に入れるよう支援している。お風呂場の横にある坪庭が温泉気分を醸しだしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ユニットになっているため、好きな時間に、好きな場所で過ごせるように、個々の生活習慣や、プライバシーを見守りする支援をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの疾患と、服用している薬の名前、副作用を把握し、身体、精神の変化の状態確認をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意なことや好きなことを把握し、依頼することにより、張り合いがもてるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	散歩、ドライブ、受診の付添い、美容室、買い物、地域の行事等、個々の希望や促しにて、外出できるように支援している。	事業所全体で出かける花見等もあるが、基本的に外出は利用者ごとに個別対応している。利用者が出かけたいと思った時に、支援できるよう日中は、ユニットごとに指定基準より1名多い職員が配置されている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	財布に、こずかい程度のお金を所持して、移動パン販売で購入したり、自販機でジュースを買っている。管理できるように見守りながら、支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は自由に使うことができ、使用している。年賀状を書いたり、メモを取るように促し、ペンを持ち文章を書くように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	調度、物品、装飾など、家庭的な雰囲気、空間作りと工夫し、冷暖房の調整に配慮し、季節感の変化を取り入れて落ち着いて過ごせるように支援している。	共有空間に限らず、事業所内どこを見ても一般家庭の雰囲気である。昔ながらの和風の作りであり、1ユニットに2箇所ずつ共有空間が設けられている。畳の共有空間は、歩けなくなっても這って動ける空間になっており、重度化しても生活リハビリができるよう工夫されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ユニットになっているため、プライバシーを尊重し、自由に過ごせる時間、場所を見守り支援をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている(小規模多機能の場合)宿泊用の部屋について、自宅とのギャップを感じさせない工夫等の取組をしている	使い慣れた家具や生活用品を持ち込み、畳、じゅうたん、布団・ベット等をなじみのもので安心して過ごせる場所になるように環境整備を支援している。	事業所で準備している設備等は無く、タンスやベッド、テレビ等利用者の馴染みの物を持ち込んでもらうこととしている。今まで使っていたものを持ち込み安心して過ごせる環境となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	お風呂、トイレ、玄関の必要最低限の手すりがあり、家庭の雰囲気の中で、自由に生活ができるように支援している。		